

哺乳類ノート(1)

— ホンドカヤネズミの新産地 —

山口 佳 秀

Notes on Mammals (1)
— New Locality for Harvest Mouse —
Yoshihide YAMAGUCHI

神奈川県にはホンドアカネズミ *Apodemus speciosus*, ホンドヒメネズミ *Apodemus argenteus argenteus*, カゲネズミ *Eothenomys kageus*, ホンドハタネズミ *Microtus montebelli*, ホンドカヤネズミ *Microtus minutus japonicus* の5種のいわゆる野ネズミが棲息している。それらのうち、ホンドカヤネズミはススキ、オギなどの禾本科植物を主とした草原の周辺部が棲息場所になるため分布は限られ、秦野市落合(今泉, 1960), 秦野市ヤビツ峠(今泉ほか, 1966), 足柄上郡山北町堂山(今泉ほか, 1966), 津久井郡上沢井(小林, 1974)の4カ所(図: 1)が知られている。

筆者は1974年以降の調査において、ホンドカヤネズミの棲息地4カ所を新たに確認することができたので

新産地としてここに報告する。

本稿をまとめるにあたり、貴重な情報と有益な御助言をいただいた神奈川県立博物館小林峯生・高橋秀男氏、東京農業大学北原正宜諸氏に厚く御礼申し上げます。

新産地 (1) 神奈川県山北町王風山寺 北側 標高 220m。

1975年10月22日、アズマネザサを巢材に地上55cmの高さに作られた球巢1個を採集した。(図: 2)巢内には杉の冬芽によく似た糞が多量に残っているのみで、使用後放棄した巣と思われる。なお、巢の出入口は北東に向かって設けられていた。

新産地 (2) 神奈川県秦野市南矢名 小田急電鉄線路沿い。



図1: ホンドカヤネズミの分布

- ① 山北町王風山寺
- ② 秦野市南矢名
- ③ 座間市谷戸山
- ④ 鎌倉市山崎
- ⑤ 山北町堂山
- ⑥ 秦野市落合
- ⑦ 秦野市ヤビツ峠
- ⑧ 津久井町上沢井

1976年5月8日、東京農業大学北原正宜氏らは当地に於て地上棲小哺乳類の採集を試みた結果、ホンドカヤネズミ4個体、ホンドアカネズミ、ハタネズミを採集したとの情報を得た。

そこで、筆者は1976年5月30日に現地を訪れ調査を試みた結果、ヒメガヤを巣材した直径約10cmの球巣6個を発見したが、いずれも前年使用した巣と推察され、この時期は地表の推積物の下や孔道の中で生活しているものと思われる。

新産地 (3) 座間市入谷町谷戸山、標高50m。

1980年10月に当館高橋秀男氏が植物調査の際にオギを巣材とした直径8cmの球巣1個を採集した。その後、筆者は10月30日に同地を訪れチゴザサを巣材に地上25cmの高さにつくられた直径8cmの球巣を1個採集した。

新産地 (4) 鎌倉市山崎 市立山崎小学校南西側 標高40m

1975年7月21日から数回調査する機会があり延20個の球巣を調査した。それらのうち、1975年10月9日にススキを巣材とした地上105cmの高さにつくられた直径10cmの巣塊の中には2個体の乳児が確認された。

(図：4)

当地で調査した20個の球巣の巣材は大部分がススキであったが、1975年10月21日にイヌスギナとミゾソバを用いて作られた球巣2個を採集した。

神奈川県におけるホンドカヤネズミの棲息地は、8カ所をかぞえ、分布図(図：1)をみるかぎり本種が全县に相当広く分布することを示しているが、1980年5月29日に秦野市南矢部の棲息地を訪れたところ現地は宅地造成のため整地工事が始まり、新しい土が一面に積み上げられていた。周辺の状況からみてこの地のカ

ヤネズミは絶滅したと推察される。かつては東京都区内にも多数棲息し、少なくとも関東平野においては最も広く分布していたといわれる本種も、現在では宅地造成などの自然破壊により棲息地は極端に狭まり、遠からず、本県からカヤネズミの姿を見ることができなくなると思われる。

参 考 文 献

今泉古典・吉行瑞子・小原巖 1964 大山丹沢学術調査報告書。347—348 神奈川県

今泉古典・吉行瑞子・小原巖・土屋公幸 1966 哺乳動雑。3, 15—16。

小林峯生 1974 哺乳動雑。6, 179—180。

白石哲 1969 林試研報第220号。1—8。

(神奈川県立博物館)



図3：カヤネズミの棲息環境（鎌倉）



図2：カヤネズミの球巣



図4：カヤネズミの球巣